

小松マテレーとの協業本格化

輸出や産業資材に注力

吉田産業

今年2月に小松マテレーグループとなった吉田産業は、産業資材や輸出、サステイナブルなどを切り口にグループ連携を強める。同社の編み立て技術と小松マテレーの染色

加工技術を組み合わせて新しい展開を目指す。

吉田産業は産業資材用途のダブルラッセル、特殊立体編物、シームレス経編機によるファッション用途などが柱で、現在は産業資材用途が50%を占める。

小松マテレーとの協業は、ゴルフウェアや中東向け、インターリンク金沢との連携による製品展開などで始まっており、人的交流も生産と営業の両面で進んでいる。23年は協業を本格化し、シナー発揮を狙う。

特に重点を置くのが、低温で素早く染めることで染色におけるCO₂排

出量削減につながる「W S」との協業。織物だけでなく、ニットでも高い効果が得られるため、従来のニット品をWSに置き換えるながら展開を広げている。吉田産業が産地のニッターと連携してグループのニットの拠点となり、丸編みやトリコットを含めてニットの展開を拡大する。シームレス経編み機と製品染めを組み合わせたサステイナブルなモノ作りにも取り組む。

拡販で重点を置くのが輸出と産業資材で、輸出はハイファッションやスポーツなどを狙う。現状、小松マテレーのスポーツと輸出は織物がほとんどだが、協業でニットの拡大につながる。中東向けのニットも拡大する。産業資材でのニットの開発にも注力し、小松マテレーグループの産業資材比率を引き上げる。吉田産業が持つジャカードの技術や多様なゲージ（14、18、22、24、28等）に対応できる特徴と、小松マテレーグループの染色加工技術を組み合わせて、開発を強化する。ターゲットの一つが自動車で、ウレタンフォーム代替などを狙った開発を加速する。スマートテキスタイルなどもターゲットとなる。